JOCV千葉OB会報

2017年1月
No. 91

新年号

1. 年頭所感　“協力隊よ、どこへ行く”

謹賀新年、リオ・オリンピックに沸いた 2016 年があっという間に過ぎ、また新しい年がやって来ました。高校から 50 年もバドミントンを続けてきた私としては髙橋・松友ペアの金メダルと奥原希望選手の銅メダルは最高にうれしいニュースでした。2020 年には東京オリンピック・パラリンピックです。選手たちがどのようなパフォーマンスを見せてくれるか、今から楽しみです。と、言っても、4 年後には 70 歳を迎えており、まず生き抜いて行かなければなりません。

さて、こちらも 50 年を超えた協力隊事業、ちょっとしたニュースが飛び込んできました。本年度秋募集で合格した隊員と日系社会青年ボランティアが一緒に訓練を行うというものです。ご存知ない方も多いかもしれませんが、日系社会青年ボランティアは当初「海外開発青年」と呼ばれ、南米等に将来移住を計画している青年の現地体験を目的としてスタートした事業です。時代の流れの中で移住事業が衰退していく中、ボランティア事業として再編されましたが、派遣国は中南米の日系社会に限定されています。

シニア海外ボランティアと同様に日系社会青年ボランティアも JOCV 事務局に事業が移管され、ボランティア色が強まって来ましたが、来年度から派遣前訓練を一緒にすることになったようです。

確かに、秋募集の要請一覧表を見ると、各職種の要請内容を記載した右端の活動形態に「日系」と書いてあります。従来は要請一覧の後ろにまとめて記載されていましたので、注意したらわかるのですが、隊員を受験したつもりが合格発表を見たら日系青年ボランティアだったというトラブルが起きそうです。実際、10 月の JOCV ナビに来てくれた大学生は青少年活動の職種だったのですが、希望する案件の一番目にブラジルの要請を選んでおり、隊員と日系青年ボランティアの違いなどを説明したところ、自分は元々隊員希望で、要請内容だけを見て判断した結果、日系青年を選んでしまったことが分かり、アフリカの要請に切り替えたケースがありました。

JOCV ナビは全国で行われており、他の県は千葉県のように隊員と日系青年との制度的な違いをきちんと説明して、応募者が正しく理解した上で希望する案件を選択できているか、はなはだ疑問に思います。

日系青年の派遣前研修（訓練とは呼んでいません）は、これまで JICA 横浜で行われており、研修期間も少々短く、業務委託先は移住事業に関係して来たところとなっています。聞けば、日系青年の派遣前訓練はその派遣国の関係で駒ケ根訓練所にて行われるとのことですが、ブラジルだけは JICA 横浜に残るようです。理由は分かるような気がします。

いずれにしても、2017 年は協力隊事業にとって変革の年となりそうです。二本松訓練所に在職していた 2005～6 年当時、シニア海外ボランティアとの合同訓練を開始したいと JOCV 事務局から通知がありました。若者とシニアの合同訓練は語学学習もさることながら日常生活の違いから色々な問題が起きるのではと語学講師を含めて問題視していましたが、結果的にはそれほど大問題は起きなかったようです。シニアは朝早くから起き出し、若者の爽やかな寝覚めを邪魔したとか言うことはあったようですが、シニアの経験が若者にも良い影響を与えたというのが評価されることのようです。

今後、現在のボランティア４事業（青年海外協力隊員、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニアボランティア）がどうなるか全く不明ですが、欧米のように年齢の垣根がなくなり一つのボランティア事業として統合されるのでしょうか？　神のみぞ知ることなのでしょうね。

会長　　浜田　眞一　（昭和 51 年度 2 次隊前期）

ミクロネシア事務所にて

目次

1. 会長年頭所感
2. 報告事項
3. 特別寄稿：佐藤　秀樹（H13年度3次隊、エクアドル、野菜）
　　和泉　澤浩（H23年度2次隊、マラウイ、青少年活動）
4. 現地活動レポート（派遣中隊員寄稿）

H27-3	高石　千絵	ウズベキスタン	PCインストラクター	市川市
H27-3	村岡　すずか	エチオピア	環境教育	千葉市
H27-3	勝股　歩美	エルサルバドル	理学療法士	旭市
H27-4	山本　路子	ガーナ	PCインストラクター	千葉市
H27-3	石黒　慶	キリバス	料理	千葉市
H27-2	石川　悠一	キルギス	自動車整備	千葉市
H27-2	七島　寛子	キルギス	デザイン	印西市
H27-2	加藤　律子	ザンビア	家政・生活改善	松戸市
H27-2	鈴木　翔子	パラグアイ	陸上競技	四街道市
H27-2	高橋　明史	モザンビーク	数学教育	松戸市

5. トピックス　　6. 役員募集のお願い　　7. 年会費納入に当たってのお願い
8. 編集後記

2. 報告事項

1）JOCA関東ブロック会議

平成28年11月12～13日（土日）、青年海外協力隊埼玉県OB会が幹事となり、秩父小鹿野温泉旅館梁山泊にてブロック会議が開催され、関東7県に山梨、長野、新潟を加えた10都県からの参加がありました。当会からは成瀬猛副会長と安藤泰子サポーターの2名が参加しました。会議の内容は、初日に各県の活動報告や情報交換、JOCA事業報告・計画があり、2日目には、JOCAから「NPO化の方針見直し」「地方創生の流れ」「映画クロスロード」などについての説明に続き、質疑応答がありました。

初日夜には恒例の意見交換会とは名ばかりの大宴会が催され、飲むほどに酔うほどに、遅くまで大いに盛り上がりました。このビッグイベントのために各県は地元のお酒や特産品を持ち寄るのですが、千葉県は「やはり落花生」ということで、今年もお酒のつまみとしてそれなりの量を拠出しました。

尚、この会議は各県が持ち回りで幹事を務めるのですが、千葉県は来年の東京に次いで再来年担当することになります。準備もそれなりにしなければなりませんし、当日は受付や意見交換会の進行など相当数の助っ人が必要になります。時期をみて皆さんへご協力をお願いすることになりますので宜しくご協力お願いします。

2）ＪＩＣＡエッセイコンテスト

毎年恒例のＪＩＣＡエッセイコンテスト一次審査が10月終了しました。全国のＯＢ会は中学生の部を担当していますが、今年の千葉県の応募作品数は例年と同じくらいの2,259作品でした。この中から11作品を選出して二次審査に上げるのですが、14名の在宅審査員に依頼して各審査員が2～3作品を選び、10月8日（土）いつもの浦安市国際センターにて最終一次審査を行いました。中学生が夏休みの課題として作文を書くようですが、テーマは多岐にわたり、印象として一番多いのは「環境問

題」、リサイクルやリユースなど身近な問題を取り上げて、自分でもできることはなにかと問いかけています。

数的には多くはなかったのですが、「難民問題」について書いた作品もありました。社会科の授業で取り上げられ、テレビや新聞でもシリア難民が報道されていましたから、かなり気になるテーマだったようです。

今後、二次審査を経て、最終審査へと進み、ＪＩＣＡ理事長賞、外務大臣奨励賞、文部大臣奨励賞などの上位入賞作品が選出されることになります。

3. 特別寄稿

草の根魂を忘れずに～
～協力隊で培った経験をバングラデシュでの活動へ

佐藤　秀樹（H13年度3次隊、エクアドル、野菜）
所属：公益社団法人 日本環境教育フォーラム
Email ： hideki_sato@jeef.or.jp

エクアドルへ野菜隊員として派遣されてから、はや15年程度経ちました。当時を振返ってみると、スペイン語という言葉の壁や現地での活動協力のあり方について模索した日々でした。しかし、協力隊への参加は、私の国際協力分野の道を歩む貴重な第一歩となりました。青年海外協力隊員では、草の根レベルでの活動の重要性を認識し、地域で核となるリーダー(人づくり)の重要性や、地域の人たちと一緒に活動する喜び、お互いの文化・習慣を理解・尊重し合うことの大切さを学びました。

帰国後は、大学院進学、農業・農村開発分野のコンサルティング企業を経て、現在は、日本環境教育フォーラム(環境 NGO)の職員として勤務しています。今の勤務先では、2013年1月から主にバングラデシュにおける環境教育の技能を活かした地域住民の生活や生計向上の支援活動を行っています。地域の人と一緒に活動する精神は、協力隊時に培った経験が基になっています。

現在、バングラデシュでは、人と自然と共生した地域づくりを目指し、同国で8管区ある中のクルナ管区にて、ローカルNGOと協働しながら環境活動を進めています。具体的には、バングラデシュで唯一の世界自然遺産であるスンダルバンスと対岸を接する農村部にて、マングローブの森を守りながら天然蜂蜜収集人の蜂蜜収集技能向上を図るための研修会の開催や、これまで行われてこなかった蜂蜜の瓶詰等による商品開発を通じて、彼らが自立して生計向上を果たすことのできる仕組みづくりを進めています。また、スンダルバンスをテーマとした小学校向けの生物多様性教材の開発・普及啓発、家庭菜園による栄養改善、植林、カニの養殖等、適切な自然資源の利用・管理による取組みを実施しています。協力隊時代の現場で培った face to face の精神を大切にし、地域住民、行政、大学教員、ローカルNGO等の様々な関係者と協力しながら、地域が一体となった活動ができるよう、がんばっているところです。

バングラデシュは、経済発展が進む中、経済と環境の調和した社会づくりが求められます。バングラデシュの地域性や固有性を活かしながら、住民主導による開発と環境が両立した活動を進めていけるよう、協力隊で培った草の根魂を忘れずに取組んでいきます。

国際協力推進員という仕事

和泉澤　浩（H23年度2次隊、マラウイ、青少年活動）
JICA千葉デスク　国際協力推進員　浦安市在住

2014年2月に千葉県の国際協力推進員（JICA千葉デスク）に着任し、間もなく任期の3年を迎えます。この3年を振り返って、青年海外協力隊千葉OB会の皆さんをはじめJICAボランティア関係者や地域の方々に支えられ、本当に貴重な経験をさせていただきました。そこで、国際協力推進員について改めて紹介したいと思います。

JICA千葉デスクは、海浜幕張にある（公財）ちば国際コンベンションビューロー内の、千葉県国際交流センターに「地域のJICA窓口」として配置されています。県民の皆さんと国際協力を繋ぐパイプ役として、「国際協力で千葉県を盛り上げる」をモットーに業務を行っています。JICA千葉デスクを含む国際協力推進員は、全国各地域に配置され、その業務は以下のとおりです。

＜主な業務内容＞

(1) 地方自治体、地域国際化協会等と連携した国際協力事業の広報啓発活動の推進
(2) 地方自治体、地域国際化協会、大学、NGO及び企業等が行う国際協力事業との連携推進
(3) 機構の草の根技術協力事業の推進
(4) 機構の民間連携事業の推進
(5) 機構の開発教育（国際理解教育）支援業務の推進

（6）機構のボランティア事業への市民参加促進、応募相談及び帰国ボランティアの活動支援、推進
（7）研修員受入先の開拓等支援、推進

このように、業務内容は幅広くこの場ですべてを紹介しきれないので、今回は青年海外協力隊千葉OB会（以下、千葉OB会）と一緒に行っている活動に焦点を当てて、いくつか紹介をさせていただきます。

〇イベントへの共同ブース出展（浦安市、松戸市）
毎年、千葉OB会の協力を得て、浦安市と松戸市での国際イベントに共同ブースを出展しています。ブースでは、JICA地球ひろばの立体展示物、活動写真パネルの展示やJICA資料の配布、またJICAボランティアへの応募相談などを行っています。

〇国際協力出前講座
麗澤大学との連携出前講座を中心に、千葉OB会には出前講座講師の紹介などをご協力いただき、出前講座の依頼元へJICAボランティア経験者を講師として派遣しています。

〇グローバルキッチン　~世界の食文化を楽しもう！~
世界の文化をより身近に感じていただくために、食を通した調理イベント「グローバルキッチン」を千葉OB会との共催で実施しています。毎回JICAボランティア経験者が講師となり、任国の料理を調理し食すイベントです。(2015年度は、6回実施。2016年度は、5回実施予定。)

〇エッセイコンテスト訪問表彰
JICAが実施している国際協力中学生・高校生エッセイコンテストでは、県内の優秀な作品に対して、千葉OB会会長賞を授与いただき、一緒に訪問表彰へのご協力をいただいています。

他にも、JICAボランティアの表敬訪問への同行や壮行会の開催、また派遣中のボランティア隊員のご家族向けに「留守家族連絡会」を共催しています。

ご覧の通り、国際協力推進員は、千葉OB会をはじめとする地域の方々の協力があってこそ成り立つ業務です。現在、県内の自治体、企業、NPO、学校など、様々な団体と連携して、草の根技術協力事業、中小企業海外展開支援をはじめとした民間連携事業、出前講座を含む開発教育、ボランティア事業等を推進しています。皆さんの周りで国際協力に興味のある団体等がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただき、一緒に国際協力で千葉県をより一層元気にしていきたいと思っています。今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。

4. 現地活動レポート（派遣中隊員寄稿）

H27-3　高石千絵　ウズベキスタン　PC インストラクター
市川市

Xush Kelibsiz(ようこそ)　Uzbekistan！

アッサローム・アレイクム！（こんにちは！）
中央アジアの真ん中に位置するウズベキスタン共和国からお届けいたします。
２０１６年１月よりウズベキスタンの首都タシケントの郊外にある小中学校へPCインストラクターとして派遣されている高石千絵です。
ウズベキスタンと聞いて、直ぐに位置が分かる方はとても少ないと思います。実際に派遣されている私自身も青年海外協力隊に応募するまでは何となくの位置しか知りませんでした。国名の最後に「スタン」があると、アフガニスタンなどが思い出されて危険な国と思われてしまいますが、一部の国境付近を除くと驚くほど治安の良い国です。イスラーム教徒が国民の大半

を占めますが、南の地区を除くとゆる～い部分も多く、お酒好きな男性が結構います。学校の先生に「酒は無いのか？」と日本酒を持ってくるように依頼されたこともあります。また、断食月（ラマダン）では、「フド　ウズル（神様、ごめんなさい）」と言いながら、日中に飲食をする方もいるのです。勿論、お酒も豚肉（！）も口にしない敬虔な方もいます。実は、イスラームの国ですが豚肉が手に入るのです。ロシア正教会を信仰している方やロシア系の方、そしてソ連時代に強制移住させられた朝鮮系の方が居住しているためです。タシケントにあるバザールには大抵韓国系のお店があり、キムチや海苔、醤油など韓国の食材が購入できます。バザールでは、野菜や果物が安価で販売されていて、旬の時のお値段は破格で驚きます。夏には西瓜やメロンが大玉で30～50円、ジャガイモや玉ねぎも1ｋｇが15～20円の時もあります。日本に帰った後にスーパーマーケットへ行き、値段に慄きそうです。

日々異文化に触れながら活動していると、文化の違いや言語の違いによる考え方や感覚の違いに関心したり、驚かされることが多いです。ウズベキスタンでは、電車やバスに年配の方が乗車してくると自然に若い人が席を譲り、譲られる側も謝意を示してさらりと座ります。見ていて非常に気持ちが良いです。見習うべき美点はしっかりと吸収し、自分でも実行していきたいです。

配属先の学校では、情報の授業の技術サポートやPCの修理、先生方へのパソコン関係のサポート、課外クラブ活動で日本語と折り紙を教えています。また、他のボランティアと合同で教員向けセミナーも実施しています。今後も活動を通じてウズベキスタンと日本の文化交流を図っていきたいです。

教員向けセミナー_251番学校

折り紙体験

H27-3　　村岡すずか　エチオピア　環境教育　千葉市

エチオピア：コーヒーの森

エチオピアの首都アディスアベバから南西に約５００キロ、コーヒーが誕生したカファの森の中に私はいる。みんなコーヒーが大好きで、コーヒーを飲んで行けと誘われる。

私はカファ県環境保護課の教育部門に所属する。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学を訪問して環境に関する授業やプロジェクトを実施している。例えば、小学校の環境クラブと水について学び、雨水をためるためのドラム缶を設置した。また、ポイ捨て禁止を促すため、校内ゴミ箱プロジェクトを発足した。カファの人々の生活は森と密着している。木材は建設資材だけではなく、家庭での調理用木炭として日常的に使われる。さらに、森からはコーヒー、蜂蜜や薬草もとれる。見たことのない木や草花、虫、蝶々、鳥。高い木と木の間を飛び交う、白黒のコロバスモンキーに圧倒された。

自然豊かなカファの森は、２００５年にユネスコにエコパークとして認定された。しかし、森林伐採、ゴミ、水に関する社会・環境問題もある。これからカファの持続可能な経済発展と環境保護の取り組みの一部が環境教育である。

もうすぐカファに来て１年がたつ。そんな街で出逢った素敵な人々を紹介したい。

1. 大家さんファミリー。お父さんとお母さんは私と同じ３０代。小学生の長男、幼稚園生の次男と、もうすぐ２歳になるお嬢ちゃん。今では家族同然の付き合い。お母さんとは身振り手振りの会話で分かり合える関係。自宅にバナナ泥棒のサルが侵入した時は笑われた。
2. コーヒーファマーという投資家軍団。カファでは巨大コーヒ

一農園を訪れる機会もある。春にコーヒーの白い花が咲いて、秋には赤いコーヒーの実になる。農地開拓、植林、雑草除去、収穫、豆の選別など全て人の手で行われる。唯一の機械はコーヒーの実を剥く脱穀機。

3. ハチミツ仙人。聖なるバルタ滝の近くに住む養蜂家のムルース。彼を訪問すると、自然の大切さやシンプル人生論が聴ける。こだわりの蜂蜜は日本で販売された事もある。
4. 世界のボランティア。カファにはアメリカ、ドイツ、オランダ、イタリア、イギリス、韓国から様々な目的をもったボランティアがやってくる。時々集まって、活動状況や日々の苦労話をする仲間だ。
5. 現地 NGO：アシャナフィ。カファ産まれ、カファ育ち。農村部の教育普及を支援する NGO の代表。高校時代は徒歩で片道２時間かけて学校に行っていた。同級生の奥さんは、クラスで唯一の女子だったそうだ。そんな、彼女は現在、大学で心理学を教えている。
6. 旅人。時々カファに物好きな観光客が来る。特に印象的だったのは、同じ千葉県出身の２２歳のリョウ君。大学を休学して世界中を巡っている。ワイルドコーヒーの森に感動していた。陸路でケニアに行くと笑顔で去っていった。

残りあと１年。カファでの生活が楽しみだ。

コーヒー農園にて。これから雑草除去へ

小学校の環境クラブ。水の授業後、雨水貯水用のドラム缶にペイント

H27-3　　勝股歩美　エルサルバドル　理学療法士　旭市

(1) 協力隊に関すること

はじめまして。平成 28 年 1 月よりエルサルバドルに派遣され現在活動中の、理学療法士の勝股と申します。私の配属先は、首都にある国立障害者リハビリテーション機構の施設の一つで、無料で 0 歳から 18 歳までの障害児へ外来リハを提供している青少年総合リハビリテーションセンターです。

現在の活動は、外来リハビリ患者の担当、同僚を対象とした勉強会の開催、同僚・利用者へのアンケート調査、配属先の取り組みに付いての助言、既存のリハビリ物品の使い方の説明、リサイクル材料を活用してリハビリ器具の作成、他国や宗教団体から寄付された車椅子を利用者に合わせて調整補助などをしています。同僚の中には長年、当国の障害を持つ子供たちに関わり、様々な取り組みを行ってきた人たちもおり、逆に学ばせていただくことも多いです。同僚の意見を尊重し、主役は現地の方たちであることを常に念頭に置き、活動しています。

独立記念日に合わせて配属先で行われたイベント

(2) 任国について

エルサルバドルは、日本の四国より少し大きい面積で、人口は千葉県と同じくらいの中米にある小さな国です。言語はスペイン語、宗教はキリスト教が主です。国の人口の3分の1に当たる人数がアメリカ合衆国へ出稼ぎに出ており、外国在住の家族からの仕送りで家計が成り立っている家庭も多いです。気候は熱帯気候で、季節は乾季と雨季の二つに分かれ、私が住んでいる首都サンサルバドルの日中の気温は30℃を超える日が多く、汗ばむ日がほとんどです。電気は安定していますが、時折水不足で水道が使用できないこともあります。自動車や洗濯機などの家具が揃う家は、裕福な家庭に限られます。

配属先のある首都には約3分の1の人口が集中しており、一見途上国を感じさせない高級住宅街やショッピングモールが見られますが、少し場所が変わるとトタンでできた家が建ち並ぶ貧困地域が見られます。首都から離れた地域は、整備されていない道で車は通れず歩行のみしか通行できないところや、水道設備が整っておらず川や用水路で洗濯や水浴びをするなど生活状況も首都とは異なり、障害を持つ人の社会へのアクセスもしにくいです。貧困地域は治安が悪いことも多く、本当に支援の必要な地域に十分な助けが行き届きにくい状況です。

食べ物はトウモロコシの粉で作るトルティージャが主食であり、フリホーレスと言われる豆を煮たものと、プラタノと呼ばれる甘くないバナナを焼いたものを食べる習慣があります。国を代表する食べ物にププサがあります。これはトルティージャの生地の中にチーズとフリホーレス、その他の具材を入れて焼いたものです。

道でみられるププサのお店

(3) 現地の挨拶

こちらの人の挨拶は、基本的にハグです。家族、恋人間、同僚同士、友達同士でも必ずハグをします。この挨拶が人と人との距離感を縮めています。そして人を呼ぶときには、その人との関係性で呼ぶ習慣があります。例えば、お母さんが子供に対して「Mi amor(私の愛する人)」や大切なものに例えて「Mi vida(私の人生)」、「Mi corazón(私のハート)」と呼びます。同僚に対しても「Mi hija(私の娘)」と自分の家族のように大切な存在として呼びます。このように現地の人は、自分は愛されている人間なのだと育てられ生活しているため、自尊心も高く、愛情に溢れている人が多いと思います。お金では買えない愛に包まれた彼らに私はいつも助けられています。

残りの任期も、日本人とエルサルバドル人お互いの得意不得意を協力し合いながら、現地の人とともに障害を持つ子供たちの生活をより良くする支援ができればと思っています。

H27-4　　山本路子　ガーナ　PCインストラクター　千葉市

1, 隊員活動に関すること（業務）

私はガーナの北部都市タマレにある「バガバガ教員養成校」という学校で活動しています。この学校は、小中学校の先生を目指すための学校です。ここでWordとExcelの実技の授業をするのが、私の派遣要請の中心的内容です。学校には約40台のPCがありますが授業で使うことはほとんどありません。情報科目“ICT”（Information and Communication Technology）の授業は理論が中心で、とにかく知識を叩き込みます。一方の実技の授業は全体の2割 程度しかありません。この環境の中でいかに学生にPCを触る機会を多く作り、PCを使う楽しさを伝えるか…と常に考えています。先学期は、Excelの基本的な使い方と関数を教えました。ですが授業当日に停電になってしまいPCが使えなくなるなどハプニングも多々あり、十分に教えることができ

ませんでした。ガーナでは停電はよくあることで、停電の中でいかにしてPCの使い方を教えるかが大きな課題です。

授業以外には、ICTクラブの活動をしています。通常授業ではあまりにも実技を学ぶ時間が少ないので、今後はこのクラブ活動をメインに行っていこうと思っています。また学生だけではなく、教員にもExcelでの成績管理の仕方などのワークショップを行うことも計画しています。

2, 任国に関すること（食べ物、習慣、旅など日常生活全般）

ガーナは酸っぱい食べ物が多く、赴任当初はその酸っぱさが耐えられなかったのですが、半年を過ぎた今では時々その酸っぱさが恋しくなる時があります。私のお気に入りのガーナ食は、バンクー(Banku)です。バンクーとは、発酵させたキャッサバ粉とトウモロコシ粉にお湯を入れて火にかけて練った白いボールのようなものです。この酸っぱいボールと、ピリ辛のピーナッツスープと一緒に食べます。ボールの酸っぱさと、スープの辛さのコンビネーションは絶妙です。それをガーナ人と同じように手で食べると、とても喜ばれます。現地の人と同じ物を同じように食べることは、大切なコミュニケーションの１つです。

3, その他（なんでもOK）～上司の紹介～　計220字

配属先で一番頼りになるのは、上司であるEmmanさんです。EmmanさんはＪＩＣＡが行う研修制度で､鹿児島に2カ月間滞在していた経験があります。そのため日本がとても好きで、日本語も少し話せます。配属先でEmmanさんとだけは毎朝日本語で挨拶をしています。「すばらしい！」がお気に入りの言葉のようであり、ちょっとしたことでも「すばらしい！」とかなり大げさにかつ満面の笑みで褒めてくれます。そんなEmmanさんがとてもかわいらしく、彼の笑顔に癒されながら毎日を活動しています。

学期末最後の授業で学生と記念撮影

笑顔が素敵な上司のEmmanさん

H27-3　　石黒　慶　キリバス　料理　千葉市

27年度3次隊としてキリバスに派遣されています。職種は料理。キリバスの船員養成校にて、将来、外国のタンカー船や日本のマグロ、カツオ等の漁船での就業を目標とする学生達に、衛生管理や調理手法、厨房管理の方法やマナー、日本食のレシピを教えることだけでなく、フードサービスに関することを、自分の実施可能な範囲内で多くのことを生徒達に教えていくことができればと思い活動に取り組んでいます。

派遣されてからもうそろそろ一年になります。キリバスの生活にも慣れ、今まで経験したことがなかった教師として教壇に立ち、授業を行うといった経験もさせてもらうことができました。外国人が変わったものを作っているぞ、という生徒達の奇奇怪怪な面持ちと、興味津々な視線の中で調理実習ができたりと、課題は多々ありつつも色々なことができた任期前半であった様に感じています。

しかし今ふと思うことは、果たしてどれだけ本人達の理解に繋がっているのかということです。この船員養成校は国内でも設備が整っており、他国の支援も多く入り、キリバスでは唯一無二の素晴らしい学校の体裁を保っています。しかし、そこで学ぶキリバス人の生活は、学ぶ内容からは大きくギャップを感じるほど素朴であり、あまりに現実とかけ離れているように感じることもあります。自分の活動から例を挙げると、家ではまな板も無い家もあるのに、学校ではまな板は使い分けないといけないと教わります。食材の出しっ放しはいけないと教わります。家には冷蔵庫も無い家が多いのが現状です。ファン（天井に設置された扇風機）の回っている涼しい部屋でプロジェクターで写された資料を見てノートにメモをとります。家では電気がない時もあります。

しかしながら、私には彼らの生活に変化を与えるほどの力はありません。時には自分には何ができるのかと自問自答し迷い、何の為にボランティアとしてここにいるのかと考えることもあります。しかし、今は無い物、無い知識に目を向け悩むより、知らないことを知った時の驚きや面白さをもっと感じてもらえるようになればと思っています。それが少しでも生活・行動に反映していけば満点以上だと思いながら楽しくやっていければ、これからの任期後半も充実したものになるかと思っています。

赤道直下の真夏の国。あらゆる資源の乏しい国ですが、無いからこそある人と人が分け合って助け合える豊かで優しい国民性を感じています。教えるだけでなく彼らから自分も学び、残りの生活も有意義なものに出来ればと思います。

キリバスの民族衣装

卒業生との写真

H27-2　　石川悠一　キルギス　自動車整備　千葉市

青年海外協力隊27年度2次隊自動車整備の石川悠一です。私の派遣先のキルギスという国は、日本から西に約5000㎞、中央アジアに位置し国土全体の40%が標高3000mを超える小さな山国です。日本と同じく四季がありますが、夏はとても暑く(40℃)、冬はとても寒い(-20℃)気候です。言語はキルギス語、公用語はロシア語です。文化はキルギス人を最大の集団とする様々な民族集団と文化が融合して出来上がったものだといいます。織物が有名であり、多くは羊のフェルトから作られます。古くから作られてきた刺繍の模様は現代では旅行者や外国市場に合わせて改良されていますが、全てのユルタ(テント)に取り付けられているような伝統的な作成方法は未だに健在です。イシククル湖という湖が有名で、夏の避暑地として国外から多くの観光客が訪れます。しかし私のお勧めはソンクル湖という標高3000mに位置する湖で、それはそれは息をのむ美しさ。スタジオジブリの映画の舞台にもなっているとか。そして料理はというと、多くの点で中央アジアの他の国と似ており、伝統的なキルギス料理はマトン(羊肉)や馬肉、様々な乳製品があり、味付けは基本塩と大量の油。私はプロフという肉と人参の炊き込みご飯が好きでよく食べます。このプロフも味付けはもちろん塩と大量の油。初めて食べる人は胃もたれするかもしれません。街を歩いているとよく韓国人や中国人と間違われますが、日本人だというと喜んでくれる人が多いです。なぜなら昔、キルギス人と日本人は兄弟だったという言い伝えがあるとかないとか。キルギスの魅力は書ききれないほど他にも沢山あります。是非、インターネットでキルギスと検索してみてください。

そして、私の配属先はそんなキルギスの首都ビシュケクの職業訓練学校で、学校の先生として自動車整備を教えています。この学校は、設備の整った整備工場、教室があります。しかし、整っているとはいえ壊れていたり老朽化が進んでいたり、工具は使い物にならなかったりと苦労する部分も沢山あります。あるもので教えなければならない状況と、どう教えるか悩む日々ですが生徒達のやる気のある顔を見ると、疲れやストレスを忘れ楽しく授業が行えます。同僚の先生方も知識は豊富で、私も学ぶことがたくさんあります。活動も残り約1年ですが、生徒達の為、キルギスの未来の為に頑張りたいと思います。

よろしくお願いいたします。

ソンクル湖と私

授業風景

H27-2　　七島寛子　キルギス　デザイン　印西市

私は平成27年2次隊デザイン隊員としてキルギスへ派遣されました。JICA プロジェクトが支援する一村一品組合(以下OVOP)の一員として働いています。このプロジェクトでは手作りのジャムや羊毛の商品を生産販売しています。私の主な仕事内容は、配属先のデザイナーへのデザイン指導、商品開発、広報そしてOVOP商品を販売しているお店の改善等です。私が直接一緒に働いているのは、若い男性のデザイナーです。キルギスは母語がキルギス語、公用語がロシア語の国で、配属先のデザイナーはロシア語を話すので私もロシア語を使っています。これが何よりの関門です。なんといっても、ロシア語は難しい言語として世界的にも有名です。もしもボランティアにならなければ、一生触れることのない言語だったとつくづく思います。このロシア語で日常会話だけでなく、「仕事」で使わなければいけないので、配属直後は伝わらないもどかしさでいっぱいでした。かつ、「デザイナー」という特殊な職種でお互いの性格も強いこだわりがあって、デザイン作業中もよくぶつかることがありました。良いと思って勧めた技術でもうまく伝えられなかった故に結局納得してもらえずに終わってしまうことがあり、悔やまれることも多々ありました。ですが、配属されて1年経過し、少しずつですが以前より交流が円滑になっていき、仕事もしやすくなりました。今更になって同僚が何を欲していて何を訴えていたのかがわかるようになり、以前はわかってあげられなかった故の衝突もあったのだろうと気づかされます。やはり日本であろうと外国であろうと、どのような環境でも第一にコミュニケーションという大事な作業を怠ってはならないと思いました。幸いな事に、同僚のデザイナーは元々「向上心」が備わっており、私の説明さえわかれば、積極的に挑戦して習得しようとしてくれています。ですので、私が配属された当初よりどんどん技術をあげて成長している姿を見ることができ、私も非常に嬉しいです。もちろん、未だに意見の相違があり、進行が難しい事も多々ありますが、意見のぶつけ合いではなく、話し合いをすることが可能となりました。隊員にとって言葉の壁というのは必ずぶち当たるものですが、隊員ほど現地語を使い現地に溶け込める機会を得られるものはないと思っています。ですから、今与えられた貴重な環境を最大限に活用して、最終的に少しでも現地の為に活動することが私の目標でもあります。言語は人によって育まれている為、その言語を知ることは、その人を知る一つの手段であると思っています。私はこの考えを軸に、引き続き活動に尽力し、残された時間を過ごしたいと思っています。

OVOP店舗改装のためのスタッフでミーティング

配属先オフィスからの眺め。つらい事があってもいつも美しいキルギスの山が癒してくれています。

H27-2　　加藤律子　ザンビア　家政・生活改善　松戸市

(1) 活動に関する事

私の配属先は、ザンビアの首都ルサカ市にあるジョージコンパウンドと呼ばれる低所得者層が住む地域のクリニックです。クリニックには、母子保健や、HIV、結核などの部門があり、私は母子保健の栄養部門で主に5歳以下の低栄養の子供達及び母親達に対して乳児健診や栄養状態の改善を主に目的として活動しています。主な活動内容としては、低栄養児を持つ母親に対しての栄養指導やクッキングデモンストレーション、乳児健診のサポートです。私の上司である栄養士と、現地ボランティアの方々と共に活動しています。実際に、ジョージコンパウンドで働いてみて、低栄養の子供達の多さに最初は驚きました。貧困の為に、1日1食しか食べ物が食べれなかったり、母親が、十分な栄養の知識がないために偏った食べ物を与えてしまうというのが、主な原因です。低栄養な子供達は、免疫力が低下して下痢などの病気でも死に陥る事も多いです。またHIV感染者も多くそれゆえに母子感染も多いのが、現状です。

(2) 任国に関する事

ザンビアの第1言語は、英語なのですが、人によっては全く英語を話せず現地語を話す人も多いです。というのもザンビアには、73もの部族が住んでおり、それによって話す現地語も様々です。首都であるルサカでは、主にニャンジャ語やベンバ語が話されています。私の地域では、主にニャンジャ語が話されています。私も現地の人と話すときは、簡単な挨拶は現地語で話すようにしています。そうするともの凄く喜んでくれます。第1言語である英語が話せないのは、受けている教育レベルによります。貧困の為に学校の教育が、満足に受けれなかったりすると、現地語のみではなく読み書きも満足に出来ない人もいます。そして教育不足の為に職が得られなかったり、自分にとって必要な情報がないためにHIV感染などに関わってしまう場合もあります。そういった場面を目のあたりにしていると、皆に平等な教育を受ける事が出来る日本は、凄いなと思う反面、その人にとって十分な教育を与えるという事がどれだけ大切なことなのかを実感します。ただ、こういった環境にいるからこそ改めて自分の育ってきた環境や、家族の有り難みに気づける事に感謝したいです。

<乳児健診> 毎週地域に出て5歳以下の乳幼児に対し体重測定や、ビタミンAなどの配分をしています。

<クッキングデモンストレーション> 月に一回地域で行っている料理教室です。対象は、乳幼児を持つ母親なので、安い材料で栄養価の高いレシピを紹介するようにしています。

H27-2　　鈴木翔子　パラグアイ　陸上競技　四街道市

「子供達の笑顔のために」

私は現在、日本から一番遠い国と言われている中南米のパラグアイで活動をしています。正直、派遣先が決まった時まで"パラグアイってどこにある国？"と思ったほど何も知識がなく、日本ではそういった人がほとんどかもしれません。

ですが、実際に到着してみると日本人にとっては非常に縁の深い国であり、戦後に移住されてこられた方々によって作られた"日本人移住地"というものまで存在し、とても驚いたのを覚えています。中には日本語を話せる現地の方もいる程です。

そんな素敵な環境の中、私は現地の子供達を対象にした陸上教室を開催したり、小学校での体育授業補助などを主に活動しています。

パラグアイは現在、首都では様々な国からの支援もあって物流面・建築面などで著しい発展をみせています。その一方で、その援助が行き渡っていない地方や田舎との差が大きく、国内での貧富の差が目立ちます。また、教育面でのそれも例外でなく、授業内容の質に大きな差があるのが現状です。例えば体育の時間が週に1度という学校も多く、なおかつ先生はボールを一つ用意して子供に渡し、子供は好きなようにサッカーをして遊ぶ。ただおしゃべりをしている子もいる。その間先生はイスに座りお茶をしながら休憩、という光景も少なくありません。そういった学校では、体育の授業は自由時間に等しいのです。

日本では、子供達は体育の授業を通して多くのスポーツと出逢い、その楽しさを知る事ができます。あるいは部活があり、習い事の時間もあります。私達にとっては当たり前の事ですが、それがここにはありません。子供達は"知らない"のではなく"知れない"のであり、スポーツを"しない"のではなく"選べない"状況にあります。

私は、子供の内にたくさんのスポーツに触れ、スポーツを通して目標をもち、色々な挑戦をしたり、それらを通して達成感を味わう経験はとても大切だと感じています。自分自身、陸上競技というスポーツを通して得た経験、学び、仲間、全てが今の自分に繋がっています。だからこそ、私に出来ることは子供達のために"陸上競技という選択肢を増やす事"と考え活動をしています。

現在約1年が経過し、現在は任地に陸上クラブを発足し、少しずつ参加者が増えてきています。と共に、中には非常に才能をもった選手もいたり、「2020年に東京オリンピックに出るんだ！」と目標をもって練習に通う選手も出てきました。１人でも多くの子が、陸上というスポーツを通して楽しんで笑顔になってもらえるように、夢や目標をもってもらえるように、これからも日々取り組んでいきます。

学校での陸上教室の風景(黄色シャツは本人)

パラグアイでは週末ごとにアサードというバーベキューのような食事をします。ただお肉の規模が違います。

U18南アメリカ大会に参加した4名の教え子と共に

H27-2　　高橋明史　モザンビーク　数学教育　松戸市

リシーレ！（現地語でおはようございます）。アフリカにあるモザンビークのシブトという田舎町で、数学教育の職種で活動をしている、高橋明史です。
1.モザンビークってこんな国　2.シブトってこんな町　3.活動について　の順で話していこうと思います。

1.モザンビークってこんな国

モザンビークはアフリカ大陸の南部にあります。旧ポルトガル領で1975年に独立ました。公用語はポルトガル語ですが、首都のマプトでは英語も通じます。逆に、少し田舎に行くと英語はおろかポルトガル語もあまり通じなくなります。（若い人には比較的ポルトガル語が通じます。）

治安に関しては、夜間に徒歩の移動をしても何もない程度には安全です。もちろん、危ない地域もあるのでそこは避けて通りますが。

食事に関しては、ポルトガルの植民地だったこともあり、アフリカらしいというよりは欧州風の見た目もきれいな料理が食べられます。他にも、中華料理、韓国料理、ベトナム料理等アジア系のレストランもあり食の選択肢は様々あります。（私はまだ行っていませんが、最近日本料理屋もできたようです。）

2.シブトってこんな町

私の活動しているシブトという町は、首都からシャパと呼ばれるバスで約4時間の場所にあります。ここではアフリカらしく停電と断水が頻繁に起きます。スーパーマーケットはなく、日々の買い物はメルカド（市場）で行います。最近日本では野菜の価格が高騰しているらしいですが、ここではトマト 6つで10Mt（20円）、玉ねぎ 1kg 30Mt（60円）等とても安く新鮮な野菜を買うことができます。※ モザンビークの通貨は Mt（メティカイス）です。

この町は豚料理が有名で、週末には同僚によく連れて行ってもらいます。この町は小さいので、町の中を通るシャパはなく移動に車は必須です。

3.活動について

(1) 通常授業：9年生と11年生（それぞれ日本の中2、高2相当）に対して数学の授業

(2) 補習授業：学期末に希望者を集めて試験対策授業

(3) 理科の実験授業の補佐の仕事を主にしています。生徒の大半は教科書を持っていません。ノートが教科書の代わりになるようにと授業をすると板書の時間が多くなってしまい、演習の時間を十分に取ることができないというのが、私や同僚教員の間での悩みです。この問題を解決するために、解説付きの演習用テキストの作成を最近同僚と始めました。残りの期間で少なくとも11、12年生の範囲のテキストを形にしたいと考えています。

色々と書きたいことはありますが文字数の都合上このあたりで終わりにします。モザンビークはいいところなので機会があればお越しください。

最後までご覧いただきありがとうございました。

ブタ

授業風景

5.トピックス

派遣中隊員に会って来ました in ソロモン　by　浜田眞一

ソロモン諸島国に派遣中の旭市出身の宮野幸恵隊員（H28-2、PCインストラクター）に会ってきました。12月3日（土）夜、成田空港を立ち、PNG経由で翌4日（日）お昼過ぎに首都ホニアラに到着。7日（水）に帰国するまでの3泊5日の弾丸特急の旅でした。5日（月）の朝一番で宮野隊員の配属先ドン・ボスコ職業訓練校を訪問しました。ドン・ボスコはイタリアのカトリック司祭でサレジオ会の創立者です。ソロモンの若者が技術を持って自立できるように職業訓練校を設立しました。宮野隊員は2代目の隊員、まだ着任後2ヶ月だったにもかかわらず、すっかり学校に溶け込んでいる様子で、校長（スリランカ人）やダイレクター（インド人）の信頼を得て、「さすが隊員！」って感じでした。学校はミッション系ですから、講師陣は他にも外国人がいるようで、宮野隊員はさしずめ日本代表ってところでしょうか。学校はちょうど試験の真っ最中、生徒は休み時間になると一生懸命に教科書やノート（メモ？）などを見て試験に備えていました。ソロモンにはもう一人、白井市出身の三谷寿子隊員（H27-2、経営管理、白井市）がいますが、任地があいにく地方の島キラキラでしたので、残念ながら今回は会うことはできませんでした。仕方がないので、千葉県海外協力隊を育てる会の名前入りカレンダーを事務所に託してきました。

実は、ソロモンへの旅の目的は「御礼と慰霊」でした。忘れもしない2000年6月5日（月）、首都ホニアラにてクーデターがあり、隊員45名を含むJICA関係者は総員51名、12日（月）までの1週間かけて50名を全員緊急避難（危険度5、総員退去）させ、現地責任者の私も大使・書記官と共に同日首都を脱出、ムンダと言う地方の小さな町を経由してソロモン大洋のかつお缶詰工場のあるノロに避難（1ヶ月滞在）した事件があったのです。

あれから16年（綾小路きみまろさん風に）年月は流れ、再訪しようと思いながらもなかなか機会がなく、現在に至ってしまいました。従って、この旅の一番の目的は緊急避難に当たってお世話になった方々への御礼でした。確度の高い情報を提供して的確な助言をいただいたソロモン国籍の日本人、通称 Y.佐藤さん（元三井物産社員）、首都隊員等が国内最終避難場所とした北野メンダナホテル総支配人山縣雅夫さん、ノロのソロモン大洋ゲストハウスでお世話になった中田マサオ（漢字不明）さん、御三方がまだホニアラにいらっしゃるということで今しかないとの思いで出かけることにしました。語り尽きない話が満載で、ホニアラの夜は静かに？更けていきました。

また、ソロモンに着任した1998年の前年、ムンダにてダイビング中に亡くなった長野県出身の伊藤隊員（歯科医）の慰霊碑（お墓）にも日本から持参したきれいな造花を添えてお参りしましたので、慰霊の旅でもありました。ソロモンはご存知の方も多いと思いますが、太平洋戦争の激戦地、多くの日米の将兵が亡くなっています。日本兵の死者は約3万人、2万人はマラリアと餓死、実際に戦闘で亡くなったのは1万人もいなかったとのことです。ホニアラの郊外、ヘンダーソン空港を見下ろす見晴らしの良い高台に日本人戦没者慰霊碑があり、日本平和記念公苑となっています。故伊藤隊員を荼毘に付した場所でもあります。ここにも参拝、ついでに街中に近いアメリカのメモリアルにも行ってきました。

また、ミクロネシアから帰国後の2010年7月から今年の8月まで6年2ヶ月、福島県郡山市の（株）メディサンに勤務していた時のJICA研修員（医療機材管理保守）3名のうち、2014年と2015年に来日した2名が通称No.9と呼ばれる国立病院に勤務しており面会に行ったのですが、びっくりしながらもとても喜んでくれました。研修員と横須賀市出身の斎藤SV（医療機器）が病院内を案内してくれましたが、5S改善などに取り組んでおり、研修の成果を相当に発揮していることが伺えました。

さらに、2000年当時の現地スタッフ3名とは昼食会に招待し、クーデター以降の話を聞くことができました。1時間半の短い時間では語りつくせない内容でしたが、2名は現在でもJICA事務所でボランティアのために働いていてくれていました。JICA事務所には水谷恭二所長がおり、広尾訓練所在職中の隊員候補生でしたから、今回の旅の後押しをしてくれました。

ホニアラの町を散策すると、16年前が思い出されましたが、人と車は大幅に増え、新しい建物もあり、正に拓け行く首都ホニアラでしょうか。平和って良いなとつくづく思いました。

こうして夢のようなあっと言う間のソロモンの旅は終ったのでした。最後に、宮野隊員や研修員訪問に同行していただいた井上さかえ調整員に感謝します。ありがとうございました。

左からダイレクター、筆者、宮野幸恵隊員、井上調整員、
現地スタッフ

左から　斉藤 SV、筆者、ダグラスさん、ホイットニーさん

故伊藤隊員の慰霊碑

日本平和記念公園にて

6.役員募集のお願い

平成 29 年度総会の重要な議題は「役員改選」です。会の規約により「役員の任期は 2 年」となっており、今度の総会で役員の改選を行わなければなりません。2011 年の総会では会の存亡が危ぶまれましたが、何とか立て直し現在に至っています。OB 会の役員はシニア世代ではなく、やはり若者中心の会の運営が望ましいと考えているものの、新隊員の県庁表敬や各種会合など平日に行われるものもあり、現役世代では休暇を取って対応せざるを得ないこともあります。協力隊事業は 50 年の時を経て、OB 会活動もシニアと若手のバランスが必要です。理想形は若手をシニアが支えることだと思いますので、「来たれ！若者」、我こそはと思う若者は「会長」や「事務局長」などの役員に手を挙げてほしいものです。ホームページや会報などの担当も必要です。自薦、他薦、何でもあり、協力隊には自ら進んで手を挙げたはず、OB 会役員にも是非とも手を挙げてください。早く楽隠居したいと思う今日この頃です。（67 歳の浜田です）

7.年会費納入に当たってのお願い

毎年、年会費（一口 1,000 円）の納入のお願いをしておりますが、2016 年 12 月 15 日の段階で 115 名の皆さんから 20 万円近くの会費を頂戴しております。引き続き、多くの方々から納入していただきたいと思いますが、振込に当たって「住所、氏名」は必ず記載されているものの、「隊次や派遣国」が記載されていないことも多く、納入者リスト作成上困っています。お手数ですが、必ず隊次と派遣国を書いていただくようお願いします。

8.編集後記

謹賀新年！本号では隊員の活動の様子が伺われることと思いますが、如何でしょうか？ 2017 年 4 月 22 日（土）23 日（日）には「協力隊まつり 2017」が JICA 地球広場（JICA 市ヶ谷ビル）にて開催されます。お忙しいとは存じますが、是非、御出で下さい。また、普段から当 OB 会に馴染みも無くて参加しづらいという方もいらっしゃると思いますが、先ずは定例会や懇親会からご参加下さい。下記の HP にて随時イベント情報を更新しているので覗いて下さい。

S57-4 ネパール 理数科教師 西村邦雄

～お知らせ～

☆ **総会の開催**

平成 29 年度総会を下記により開催します。是非ともご参集ください。

日時：平成 29 年 4 月 15 日（土）15：00～16：30

場所：浦安市国際センター 研修室 （JR 新浦安駅下車 徒歩 1 分）

ホームページのご紹介

当会ホームページにて、定例会/協力隊ナビ/講演会/懇親会等、各種イベントのスケジュールや、活動報告を掲載しています。URL は下記ですが、「青年海外協力隊千葉 OB 会」で検索していただくことでもアクセスできますので、是非ともご覧ください。

青年海外協力隊 千葉 OB 会 ホームページ： http://www.jocvchiba.net/

メーリングリスト/facebook グループのご案内

上記ホームページにて、当会のメーリングリストと facebook グループへの参加をご案内しております。是非ご参加ください。

連絡先 お問い合わせや会報への寄稿は info@jocvchiba.net までお願いします。